

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	子どもの理解と援助		
担当者(Instructors)	島崎 佳子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握する。子どもを理解するための保育者のありかた・援助するうえでの考え方を習得する。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	保育現場での具体的な事象をもとに、自分自身の心の動きを感じ取ることができるようなグループワークを行うていく。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	子ども理解の意義 1	「他者を理解する」ということはどういうことを言うのか。ワークの中で感じる。	☐
第2回	子ども理解の意義 2	子どもの見えている世界を体験してみよう。どのように見えているか、その上で大人はどうあるべきかを考える。	☐
第3回	子どもを理解する視点 1	0歳児の発達を知る。	☐
第4回	子どもを理解する視点 2	乳児期の発達を知る。	☐
第5回	子どもを理解する視点 3	幼児期の発達を知る。	☐
第6回	子どもを理解する方法 1	子どもを「みる」ということ、自分にどんな心の動きがあるのかを体験する。	☐
第7回	子どもを理解する方法 2	保育集団として子どもを支えることの大切さ、情報を共有するために配慮することを理解する。	☐
第8回	子ども理解に基づく援助のあり方	発達の支援(援助)をしていくということはどういうことなのか、具体的事例をもとに援助のあり方の多様性を学ぶ。	☐
第9回			☐
第10回			☐
第11回			☐
第12回			☐
第13回			☐
第14回			☐
第15回			☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
授業の振り返り・演習の中で感じたことを自分の言葉で表現する(レポート提出) 2時間程度。授業の中で次回のテーマを示すので、必要を思われることを調べてくる(2時間程度)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
提出した課題は、授業の中で引用していきます。レポートは添削をして返却します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	自分が思ったこと、感じたことを相手に伝えるように表現することができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	興味を持ったことを発信する。グループワークに積極的に参加する。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 授業への参加態度等を大いに充実させていきます。授業内容に応じた課題の出します。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	プリント等を適宜配付	
2		
3		
4		
5		